

様式2

児童・生徒の実態および定期考査を含む調査結果等に基づく内容別・観点別の分析表

教科名 (国語)

	生徒の学習状況の実態	学力調査の結果分析	内容、観点別分析
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ○板書や他の生徒の意見、授業での気付きや感想を書くことができる。 ○正確な表記が苦手である。 ○自分の考えを明確にもち、分かりやすく主体的に表現することが難しい生徒がいる。 ○暗唱や宿題など課題を達成できない生徒がいる。 ○漢字テストや記述力に差がある。 	<p>(学力調査実施せず)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1学期定期考査において、漢字の表記等、基本的な国語力の低さが際立っていた。男女差も大きく、男子の課題が非常に多い。 ○教科書の音読のテストで読めないなど、生徒の課題に合わせた特別な支援の方法の模索が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話す・聞く：おおむね目標を達成している。 ○書く：材料を集めることはできる。正しい表記で文章化するのが困難な生徒がいる。 ○読む：おおむね目標を達成している。学校図書館を積極的に活用している。 ○言語：小学校で学習する漢字も読み書きともにできない生徒が多い。
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ○800字程度の文章は書ける。しかし文の成分の照応が正しくできない生徒がいる。 ○文法や伝統的な言語文化の学習を得意、好きと感じる生徒が7割以上いる。一方で演習を繰り返しても理解できない生徒もいる。 ○漢字テストや記述力に差がある。 ○授業中に意欲的に発言できない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において、64.2%で東京都の平均71.7%を7.5%下回った。特に「書く」が東京都の平均59.0%に対し45.1%と最も下回っている。今後、創作文、主張文、古典の超訳作成、手紙、地域情報誌等の単元で育成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話す・聞く：演習を今後実施する予定である。 ○書く：伝えたい事柄を明確にするために、文章の構成や描写を工夫して書くことができない、または工夫することに意欲的でない生徒がいる。 ○読む：文中の根拠をもとに内容を読み取る力が不足している。 ○言語：おおむね目標を達成している。
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習、苦手な単元にも積極的に取り組む。 ○「説明文の読み方」を活用して教科書の文章を読むことができても、入試問題で活用できない生徒がいる。 ○授業中に意欲的に発言できない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正答率71%で東京都74%と、全国72%を若干下回った。 ○特に読むことが最も大きく下回っているため、一冊読みの単元等を活用して育成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話す・聞く：おおむね目標を達成している。 ○書く：論理の展開を工夫し、説得力のある文章を書くことができる生徒が少ない。 ○読む：学んだ「読み方」を活用した長文の読解ができない生徒がいる。 ○言語：おおむね目標を達成している。

様式2

児童・生徒の実態および定期考査を含む調査結果等に基づく内容別・観点別の分析表

教科名 (社会)

	生徒の学習状況の実態	学力調査の結果分析	内容、観点別分析
第一学年	<p>○授業に対して意欲的に取り組む生徒とそうでない生徒との差がみられる。意欲的な生徒は、積極的に発言を行い、ノートを自分なりにまとめることができる。</p> <p>○問題解決学習ではグループでの話し合い活動はできるが、自分の意見を相手に分かりやすく伝える力や、要点を把握し的確に発表する力はまだ不十分である。</p>	<p>(学力調査実施せず)</p> <p>○6月の定期考査は地理的分野と歴史的分野の出題であったが、学年平均点は65.9点であった。分野別では、地理的分野が40点満点中27.6点であり、歴史的分野は60点満点中39.9点であった。90点以上の生徒が10名いるのに対し、50点未満の生徒が8名いる。</p> <p>以上の結果から、歴史・地理ともに全体的に平均点を上げていく必要がある。</p>	<p>○観点別では、思考・表現問題は69%、資料活用問題は71%、知識理解問題は68%の正答率であった。全体的にそれぞれの観点においてはバランスが取れているが、記述式が多い思考・表現問題についての学習を強化する必要がある。</p> <p>○観点1の関心・意欲・態度に関しては授業への意欲を社会への関心につなげる学習活動が必要である。</p>
第二学年	<p>○発問に対して積極的に挙手を行う生徒が少なく、授業に対してまだ受動的な点が多々見られる。</p> <p>○基礎的・基本的な学力が不十分な生徒が見られるが、グループ学習に関しては、自分の意見を反映させて発表する力が徐々に身に付いてきている。</p>	<p>○「児童・生徒の学力向上を図るための調査」に関して、正答率が本校は47.2%、都が50.9%と本校は3.7%下回った。観点別では知識・理解が本校は37.4%、都が40.9%、思考・判断・表現が本校は46.8%、都が48.5%、資料活用の技能が本校は55.2%、都が61.5%となっている。</p> <p>以上の結果から、特に資料活用の技能を大幅に上げていく必要がある。</p>	<p>○全体的に都の平均点を下回っているため、各観点を底上げしていく必要がある。特に資料活用の技能と知識・理解が低いので、基礎的・基本的な知識を身に付けつつ、今後は地図や資料から事象を読み取り、問題を取り出し、解決していく学習を強化していく必要がある。</p>
第三学年	<p>○授業への取り組みは、全体として良く、ノートやワークシート、レポートなどにも真面目に取り組んでいる。</p> <p>○授業中に活発に発言する生徒がいる一方、基本的な事項の理解や、グラフなどの資料を読み取る力がやや不十分な生徒もみられる。</p>	<p>○区学力調査の結果は、本校平均正答率は総合で51.5%であり、区の55.5%、全国の56.3%をやや下回った。基礎の正答率は、55.1%、(区：58.5%、全国：60.0%)、活用の正答率は40.1% (区：45.9%、全国44.6%) で、いずれも全国・区の正答率を下回る結果となった。</p> <p>以上の結果から、基礎の定着を図るとともに、資料活用の技能も併せて身に付け、全体的に正答率を上げていく必要がある。</p>	<p>○領域別正答率地理的分野の正答率は、区や全国との差は大きくないが、歴史的分野の江戸～明治時代の正答率が低かった。</p> <p>○観点別正答率は各観点とも区と全国をやや下回った。4観点中では「社会的事象についての知識・理解」において、区・全国との差があった。</p> <p>○授業では、まず基礎的な知識を身に付けさせ、思考力や資料活用力の育成を図る。</p>

様式2

児童・生徒の実態および定期考査を含む調査結果等に基づく内容別・観点別の分析表

教科名 (数学)

	生徒の学習状況の実態	学力調査の結果分析	内容、観点別分析
第一学年	<p>○学年全体では、授業によく取り組んでいる。若干、課題や宿題への取り組みに、個人差があり、学習習慣ができていない者もあり、習熟度別学習では、それを意識しながら組織している。</p> <p>○今年度より、特別支援との連携も視野に入れて、指導・サポートを始めているところで、個に応じた支援を進めている。</p>	<p>(学力調査実施せず)</p> <p>○毎日の授業とテスト等から見ると、小学校段階の基本は身に付いている者が多いが、若干名では、小数や分数の取り扱いや、文字の式のルールの習得に手間取り定着できていない。</p>	<p>○「関心・意欲」は全体的に高い。課題プリントの提出や繰り返しの再提出にも、対応する生徒が多く、意欲的である。</p> <p>○「技能」および「知識」は、おおむね良好である。</p> <p>○「考え方」は、小学校からの算数と、数学との差異、特に形式性と論理性に生徒は苦しむことがあった。</p>
第二学年	<p>○理解や定着の差が大きく、そのため、課題や宿題への取り組みにも、個人差が目立っている。</p> <p>○多くの生徒が、まじめに学習に取り組んでいるが、基礎学力が不足している生徒もあり、意欲にも差が生じている。</p> <p>○家庭学習が習慣化していないので、定着も甘く、「解ける」と言う自信を持っていない生徒がいる。</p>	<p>○A教科の内容は、3観点とも、都平均を下回っていた。</p> <p>思考・判断・表現・・・－5. 9 p 技能・・・・・・・・・・－16. 1 p 知識・理解・・・・・・・・－8. 7 p</p> <p>○合計の結果は、都平均より11. 5 Point 下回った。</p> <p>○A層 14.7%、B層 23.5%、 C層 29.4%、D層 32.4%であった。</p>	<p>【内容】</p> <p>○「計算 (技能)」「文章題」に苦手意識を持っている生徒が多い。</p> <p>【観点】</p> <p>○3観点の中では、「思考判断表現」が一番平均に近い。提示された題材をじっくり考えたり、いろいろな見方で見ようとしたりすることはできるが、「技能」が定着していない傾向がある。</p>
第三学年	<p>○多くの生徒が、意欲を持って学習に取り組んでおり、落ち着いた環境の中で実施されている。</p> <p>○各分野の総まとめで、難度が上がってきているので、基礎が定着できていない生徒は、理解に時間がかかる。</p> <p>○家庭学習が習慣化していない生徒は、定着も甘く、「解ける」と言う自信を持っていない生徒がいる。</p> <p>○自分の進路を見据えたその意欲を大事にし、個別対応、全体指導を複合して、指導に当たっていく。</p>	<p>○今回の調査結果では、都の平均より－3 point であった。</p> <p>○観点別では、</p> <p>「技能」・・・・・・・・－8. 4 point 「見方・考え方」・・・－1. 8 point 「知識・理解」・・・－0. 4 point</p> <p>○「技能」が一番低く、この差が都平均との差に大きく関わっている。</p> <p>○確実に解ききるまでやり直しをしていない傾向があることの証左となっていると、判断する。</p>	<p>○3学年という、まとめの学年でもあるので、各単元の内容に沿いながらの総合的な復習を加味していく。</p> <p>【内容】</p> <p>○「計算 (技能)」「確率」の分野で定着の弱い生徒が目立つ。「図形」では理解が進んでいる傾向を示している。</p> <p>【観点】</p> <p>○「関心・意欲」「知識・理解」は4観点の中では高い傾向を示している。</p>

様式2

児童・生徒の実態および定期考査を含む調査結果等に基づく内容別・観点別の分析表

教科名 (理科)

	生徒の学習状況の実態	学力調査の結果分析	内容、観点別分析
第一学年	<p>○定期考査の平均点は、75.3点であり昨年の58.6点であり16.7ポイント上昇した。2年前の73.4点と比べても高くなっている。昨年の1年生、現2年生より大幅に上昇している。問題は過去の様々な入試問題より出題したものである。授業での学習内容の理解は当然のこと多くの問題をこなしていなければ解くことが出来ない。</p>	<p>定期考査の結果を考察する。(学力調査実施せず)</p> <p>○昨年度男子の平均点が47.4点女子の平均点が72.7点で男子はあまりにも低かった。今年も、男子平均71.9点。女子平均79.1点とやはり女子が高い。</p> <p>○女子のほうが平均点から見ると少々高いが、実験などを見てみると、大変学力の高い生徒でも、実験に対する思考があまり深くない様子がある。</p>	<p>授業中の様子の分析</p> <p>○授業に対する姿勢は大変良い。</p> <p>○日本語が分かり教師の指示することの意味も理解できている。</p> <p>○宿題をやる習慣、レポートを必ずやる習慣、分からないとき聞く習慣など基本的な学習に対する習慣は身に付いている。</p>
第二学年	<p>○定期テストIの平均点は40.9点(昨年度58点、一昨年度65点)である。問題の難易度に差はあるが、現3年生と比較すると、得点力はかなり低いと言える。事前の課題量は昨年より少なくしたが、それでもしっかりとやる者は限られている。学習意欲がない男子はかなりの数。普通学級で学ぶことが困難な生徒もみられる。また逆に極めて思考に切れが見られる者は確認できない。</p> <p>○授業態度に問題がある男子生徒が多くみられ、その生徒の指導に多くの時間を割かれるのが、問題である。</p>	<p>○A教科の内容は今年41.9%で(昨年度46.0%一昨年57.5%)で都の平均値49.3%(昨年54.3%一昨年57.2%)よりも7.4%低い(昨年8.3%低い一昨年度0.3%高い)。</p> <p>○思考判断表現は29.8%で(昨年37.2%)で都の平均値43.5%よりも13.7%も低い(昨年は9.5%低い)</p> <p>○技能は54.9%で(昨年61.0%)都の平均値60.1%より5.2%低い(昨年は0.9%低い)。</p> <p>○知識理解は42.2%で(昨年36.0%)との平均値47.3%より4.9%低い(昨年は11.8%低い)</p>	<p>○教科の内容は、東京都平均49.3%より7.4%低い。最も力を入れ工夫してきた、思考・判断・表現は最も低い29.8%。科学的な思考を中心に授業を展開し、理科への興味関心をもっている生徒は多く、科学の楽しさ、面白さ、科学の醍醐味を感じる力は伸びている。</p> <p>○落ち着いて授業を聞き、演習問題にもじっくりと取り組む力が不足している。</p>
第三学年	<p>○定期テストの平均点は58.6点(昨年度は60点2年前57点、3年前65点)であり、同じような問題であり、難易度も変わらないが昨年度より1.4点低くなったが、この程度の差は問題ないと考ええる。</p> <p>○週1回の探究実験の授業には大変興味を持ち積極的に参加している。昨年に引き続き同じ内容で研究するグループもあり、熱意が感じられる班があったり新しい発見をしている研究があったりする。昨年1年間の研究の結果、実験の進め方がだいたい分かってきたようである。</p> <p>○区学力調査結果:本校44.4%(区の平均52.9%、全国平均55.9%)。昨年度全国学力調査65%(都平均65%全国平均66.1%)</p>	<p>○区の学力調査の結果から教科の内容は、全国や区の平均からかなり低い。特に、知識理解度が低く生命の領域エネルギーの領域が低い。それと比べれば、粒子の領域、地球の領域が高い。また、観察・実験の技能に関しては、他と比べて高い。</p>	<p>○観点別正答率をみると、自然現象への関心・意欲・態度は49.7%で全国平均は55.9%で4.9%低い。科学的思考・表現は47.2%で全国は53.5%で6.3%低い。観察・実験の技能は59.6%で全国は69.5%で9.9%低い。自然現象についての知識・理解は38.8%で全国の55.5%より16.7%も低くすべての観点でかなり低い。</p> <p>○本校は年間を通し35時間の探究的な実験授業をしているにもかかわらず今年59.6%昨年は56.4%と2年前50.1%に比べ年ごとに上昇しているが、それでも全国と比較すると低い。(1年前67%と10.6%も低い2年前の全国61.5%で11.4%も低い)。しかしながら、観察・実験の技能に関しては、実験中心に生徒が主体的に協働的に実験を組み立てて1年間かけて探究しているので理科に興味をもつ生徒は多い。また生徒が主体的に探究をしているので、他の観点と比較しても観察、実験の技能は伸び率が高い。</p>

様式2

児童・生徒の実態および定期考査を含む調査結果等に基づく内容別・観点別の分析表

教科名 (英語)

	生徒の学習状況の実態	学力調査の結果分析	内容、観点別分析
第一学年	<p>○多くの生徒が意欲をもち、学習に励んでいる。ビンゴや単語テストなどを通じて基礎的な単語の定着をめざしている。</p> <p>○自己紹介など既習事項を使って、自分に関することを英語で積極的に表現している。</p>	<p>(学力調査実施せず)</p> <p>○定期考査Ⅰに関して、総合的にみると、9割以上の得点は22%、7割以上の得点は54%であった。リスニングに関しては半数以上の生徒が満点であった。</p> <p>○「表現の能力」に関する問題の得点率が低い傾向にある。</p>	<p>○英語を聞いたり読んだりして理解する力はあるが、英文で表現する力が不足している。</p>
第二学年	<p>○多くの生徒が授業に前向きに取り組んでいる。</p> <p>○学習習慣が身に付いている生徒と付いていない生徒の二極化が見られる。</p> <p>○家庭学習を習慣化することが課題である。</p>	<p>○都学力調査の結果、全体的に平均を下回っているが、特に「思考・判断・表現」は都平均40.8%を大きく下回り20.1%であった。</p> <p>○必要な情報を英文で伝える問題を苦手とする生徒が多くみられる。</p>	<p>○英語に関する知識・理解があり、それらを使って読み解く力はある程度もっていると考えられる。</p> <p>○英語を使って自分の考えを表現する力が不足している。</p>
第三学年	<p>○多くの生徒が授業に前向きに取り組んでいるが、いまだに学習習慣が身に付いていない生徒が一定数いる。</p> <p>○文法や単語などの学習に意欲的に取り組む生徒が多く、作文やスピーチ、コミュニケーションの学習では少し消極的になる生徒が多い。</p> <p>○基礎的な技能の習熟に差があり、読み解く力や表現力に差がある。</p>	<p>○全国学力調査の結果、学年平均は56%であり、全国平均の56%と並び、都平均の59%を下回った。</p> <p>○同学年の他の中学生と比べ、英語で質問に答えたり、情報を伝えたりするために必要な基礎的な英語力が足りない。</p>	<p>○「英語表現の能力」の学年平均は4.1%で都平均2.3%と全国平均1.8%を上回っており、アウトプットしようとする意欲がある。</p> <p>○「英語理解の能力」は学年平均43%で都平均が8%と全国平均44%を下回っている。理解に必要な単語力や文法力を身に付ける必要がある。</p>